

表紙の絵解き

赤、緑、青色の幾何形態が、曖昧模糊とした球状のうごめくエリアを睨んでいる。これはいったい何だろう？
じつは、この3つの幾何形態は芸術学部を構成する、「写真」「映像」「デザイン」の3学科を象徴しているのだ。

では、中央の怪しい球体は？ それは、いまだその実体のハッキリしない、不安含みではあるが、将来多分の可能性を秘めている「マルチメディア」の領域をあらわしているのだ。

では、絵解きをしてみよう！ まずは3学科の説明。

「写真学科」を視野の画角やフォーカスの方向性を表す「円錐」と、記録する形態を象徴する意味で、フィルムパトローネから借りた「円柱」との組み合わせで表現している。色彩は、激写の赤。「映像学科」は、映写ロールフィルムの形そのままの円盤二つの組み合わせで、エンドレスな映像イメージの円環を示している。その色彩は、映像の流れは止まるところを知らず緑。「デザイン学科」は、プロダクトとグラフィック、理論性と表現感性といった、ハードとソフトの2面のバランスを「正方形」と「球体」の組み合わせで表している。色彩は、アートよりは理知的なブルーで決まりである。

この「赤」「青」「緑」の光の三原色が重なり合って加算混合した中央に、「マルチメディアゾーン」が発光球となって、たち現れている。この「マルチメディア」の怪しい球体は、文字どおり既存3学科の手法のすべてを包み込む領域として、刻々と巨大に成長していくことは、どうやら間違いなさそうである。

ちなみに背景の荒涼たる風景は、メディアの統合の動きの前途は多難であるが、やがてこの環境も生まれ変わって、もっと居心地のよい豊かなものになっていくであろう、いや、しなければ……というイメージのつもりである。

使用したハードは、Power Macintosh 8100/80vcに65MBのメモリー、ソフトはKPT Bryceで、フラクタルによる地形と雲のモデリングおよびマップデーターの生成を実現している。

山崎 稔